

# 北山C遺跡 第5次 (No, 2)

位置情報：[北山C遺跡](#) (クリックすると地図を表示します)

○発掘調査が進んでいます！

今回は遺構が確認されるまでの流れを紹介しませう。遺構の掘削に入るまでの様子をご覧ください。



もぐ博士

## ①重機による「表土掘削」



いよいよ開始です。

いよいよ発掘調査の始まりです。

まずは遺跡に重機が入り、表土を少しずつ掘り下げていきます。

重機を使うだけに掘りすぎてしまうと遺構が破壊されてしまうことがあります。しかし掘らなさすぎるというのも、遺構を見逃すことになりかねませんから避けたいところだ。

下に何があるかわからないだけに丁寧にいきたいところじゃな。

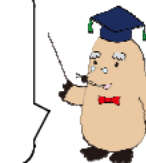


水溜跡 (赤線内)

表土の下から出てくるのは古い時代のものでとばかりはかぎりませう。

写真真ん中の丸い部分に色の違う土がみられますが、杵の跡もみられ、その材質 (モルタルとみられます。) や中から出てきた陶器片の観察から新しい時代の水溜跡とみられます。

こうしてみるとこの地域の歴史を少しずつさかのぼっているような感覚になってきますのう。



## ②人力による「検出」



一列に並び一斉に行います

重機による掘削に続き人の手でさらに地面を削り、遺構の輪郭をはっきりと出していきます。

6月も半ばとなり蒸し暑い中での作業は写真で見る以上に大変な作業です。

安全のために作業中は長袖着用が原則じゃ。  
水分補給や熱中症対策など気をつけたいものじゃな。



ほるぞうさん



遺構埋土がはっきりしてきました（写真中央）

写真中央、土の色が一部違うところがおわかりいただけますでしょうか。

土を削っていくと遺構の埋土と周囲の土との色の違いがはっきりと見えてきます。わかりにくいところは根気よく削っていくなどして遺構の範囲を確定します。



「間竿（けんざお）」

間竿を使った記録の様子

遺構の範囲が確定したものについては位置や大きさ、形を図面に記録し、実際に掘削する準備に入っていきます。

写真に写っている木の棒は「間竿<sup>けんざお</sup>」といい、計測時に定規のように使います。

記録のあとはいよいよ遺構の掘削作業じゃ。

次回以降は個別の遺構の掘削の様子も紹介していきますぞ。

ご期待ください。



### 【問い合わせ先】

三重県埋蔵文化財センター 調査研究3課 四日市整理所

〒512-8064 三重県四日市市伊坂町126-1

電話番号：059-363-3195/ファックス：059-363-3196

E-mail：[maibun@pref.mie.jp](mailto:maibun@pref.mie.jp)